

会派視察研修報告書

平成28年7月21日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員2名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	鈴木みのり・小池友妃子
日時	平成28年7月11日（月）～7月13日（水）
視察先	石川県かほく市、富山県射水市、福井県越前市
研修内容	かほく市：ママ課プロジェクトについて 射水市：学校給食におけるアレルギー対応の取り組みについて 越前市：定住促進について
日程	7/11（月） かほく市議会 14：30～16：00 7/12（火） 射水市議会 10：00～12：00 7/13（水） 越前市議会 10：00～12：00
備考	

会派視察研修成果報告書

平成 28年 7月 20日

議員氏名 鈴木 みのり

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 28年 7月 11日（月）～平成 28年 7月 13日（水）
- 2 視察先 石川県かほく市・富山県射水市・福井県越前市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

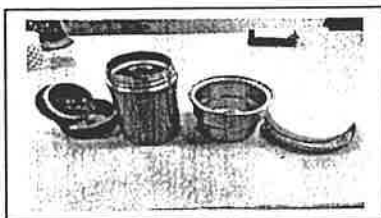
今回の視察は、市民クラブ・公明党・みらいクラブの友好3会派での視察で、改選1年目での有意義なものでした。まず、かほく市では初めて聞く“ママ課”という言葉から基本的には市民を巻き込んだ定住策を実施されており是非当市においても参考になるのではと、感じました。

次の射水市では、“学校給食のアレルギー対応”について研修させていただきました。合併されてできた自治体でまだ、センター方式と単独校方式との併用タイプでした。

基本的には、除去による対応でしたが、何しろセンターの中央に隔離された部屋で、全てを一人で仕込みから調理までやっており、それを下記写真の容器に入れてさらにビニール袋に入れて運んだり、なかなか当市でもすぐに実施とは言えないかとは感じました。それ以上に単独校を支持されている地区が多いことにビックリしました。また、事前にヘキナンシティカンパニーにおいて研修してから行ったのは、やはりよかったかなとも思いました。給食費は幼・小・中で258円・268円・309円とやや碧南市よりも、高い状況でした。これからはアレルギーの子供たちも増えてくることが予想されている中で、早めに方針を検討すべきであると提言したいと思います。

最終日は越前市で“定住促進について”研修しましたが、福井市と鯖江市に囲まれて良いのかと思いきや、逆にムラタ村と呼ばれ、働くのは越前市で住むのは近隣市と言う状況を何とかしなくてはと色々な施策を、大胆に行っていました。おまけに、市営・県営住宅に余裕があるにも関わらず、住まないのにはどうしても地理的な理由からかと感じました。これは碧南市にも共通する問題であり、深刻に受け止めて早めの対応をすべきと思います。また次回の一般質問で7名の誰かがそれぞれの問題について行うことを確認しました。

追伸・防災協定のお礼と、今後の推進や交流についても話をさせて頂きました。



会派視察研修報告書

平成28年 7月21日

議員氏名 小池 友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成28年 7月11日（月）～平成28年 7月13日（水）
- 2 視察先 石川県かほく市、富山県射水市、福井県越前市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

①石川県かほく市・・・定住促進の取り組みについて（ママ課プロジェクト）

2016年全国813市区 住みよさランキング かほく市第7位（前年度9位）。

働く世代が住みやすい都市ランキング 全国第4位

ママ課プロジェクトは定住促進施策の一つ。2015年10月に策定した「かほく市創生総合戦略推進計画」におけるシティプロモーション事業として実施。平成22年から始まった定住人口増加プロジェクトとして「住宅取得支援」

「子育て支援の充実」に力を。特に「子育て支援の充実策」として、より充実した子育て支援を実現するために、行政主導だけでなく、かほく市のママの視点を取り入れて、3歳未満のお子様をもつ他市から来られた、20～30代のママ10名を中心に「日本一ママにやさしいまち」づくりに取り組んでいる。プロジェクト内容としては、ママ課会議開催（子育て環境、市のPRに関する意見交換会）やキックオフイベントとして東京丸の内にて「かほく団欒フェア」を実施し、子育てのしやすいまちをPR。市のPRCMも年間80本オンエア。総務部企画情報課 多田課長補佐からは、「やらないよりやったほうが良い。またどこよりも早くやったほうが良い。」というのが市長を代表とした市の方針。

ママ課プロジェクトの期待効果としては、ママ目線による各種施策の利便性向上。ママの口コミによる「子育てのしやすさ」を市内外へPR。ママ自らが「まちづくり」にかかわることにより、市政への参加が期待できる。今後はママリフレッシュ事業にも力を入れ、お茶会や、ママcafe等開催予定。

定住人口増加プロジェクトも「スポーツ婚活出会いサポート支援」「新婚さん住まい応援事業補助金」「18歳までの子ども医療無料化」等行い、H16年にかほく市に統合合併したときからの児童の数また世帯数は増えてきている。暮らしやすさに惹かれて移り住む人が増えているかほく市は、子育てに奮闘中のママさんの声を聞き、一步先ゆく取り組みで子育てしやすいまちを実現し、定住人口も増加している。碧南市も是非現役のママ達の声聴いて、どこよりも早い取り組みを実現していかなくてはと感じた。



②富山県射水市・・・学校給食における食物アレルギー対応の取り組みについて

平成23年3月に竣工し、同年9月より小学校・幼稚園で食物アレルギー対応給食を実施。(中学校は対応していない。)対応する原因食品は(1)卵(2)牛乳・乳製品(3)大豆・大豆製品で、アレルギーの除去および代替食を実施。単独実施校は、除去のみ行なっているが3食品だけでなく全てのアレルギー食品について除去を行なっている。

食物アレルギー対応給食の危機管理について、射水市では、入園・就学前にアレルギー対応給食を希望する園児・児童の保護者との面談をし、「対応食希望申請書」「健康管理指導表」「診断書」「アレルギー検査結果」等を提出。1年間毎に期間更新をし、保護者との面談をし、状況確認を行なっている。給食センター内にはアレルギー調理室があり、アレルギー園児・児童分の簡易な調理等を行い対象児童の名前が書かれたステンレス製の専用容器に一人一人入れ、他の園児・児童と同じ食缶用のコンテナにて積み込む。

今後の課題については、現在該当者は9名だけだが、今後大幅に増えた場合、個々に副食を容器に詰めるため、アレルギー室で大人数に対応することが困難である。副食を調理段階で取り分けるため管理栄養士2名のうち1名はアレルギー室内の調理を常時対応している。

碧南市では、各保育園で同じように対応しているところもあるが、給食センターでは、まだまだ実施されていない。今後アレルギー体質の子どもも増えてくることから、理解を深めていただき、ぜひ対応していただきたいと思った。

③福井県越前市・・・定住促進について

県外の大学へ進学した学生のUターン率(特に女性)が弱みであった越前市が取組んだこと。それは「女性が輝くモノづくりまち ～子育て・教育環境日本一～」をめざすこと。

I J U (移住)を考えている方にSNSを活用し、各種支援の情報を配信。

また、日経BP社と包括連携協定締結し市総合戦略策定業務を日経BP社へ委託。具体的な事業推進として①「住もっさ!越前市」を日経BP社へ委託②「日経WOMAN EXPO」「日経WOMANキャリア」との連携。越前市に移住し働く女子たちを特集している。アクセス数1ヶ月5~6000。半年間で6人紹介している。1ヶ月コスト450万。

さらに越前市住宅取得緊急支援事業補助金(最大50万円)等のチラシや情報を市の職員自ら地元の大手企業に持ち込み営業活動。

碧南市も20から39歳の若者が他市へと移り住んでいく割合が非常に高く、人口減少が起きている。理由としては「通勤通学に不便。」「子育てしにくい。」という理由も分かっているので、ぜひ女性や若者が住みたいと思う事業を展開し、SNS等を使った今最先端の碧南市のPRをしていかないと定住化は難しいと感じた。子育て・教育・就業。これらをいち早く推進し、魅力的な市にしていくことこそ大切と思った。



全体を通して・・・

定住化に力を入れている他市は、女性や若者に視点を当てた事業を推進し、どこよりも早く斬新な改革をしていることに気づかされた。他市に足並みそろえるのではなく、他市より一歩二歩早く、女性や若者が住みやすいまちづくり改革を実行しなくてはならないと思った。